

生まれ変わって ヤンゴン

ミャンマー最大都市



3月3日 1:35

降りしきる雨の中、ちくまる号の愛称で親しまれた104型車両が、遠ざかる駅に別れを告げる。未明の金田駅前交差点を通過した。金田駅構内で静かに出発の時を待つ108型車両。クレーンで台車から切り離され、大型トレーラーに積み込まれる104型車両。



3月2日 21:24



3月2日 10:32



ちくまるくん20年目の旅立ち 海のかなたへ出発進行！

ミャンマー最大都市ヤンゴンで、第2の人生を送ることになったへいちく車両。平成筑豊鉄道開業時の平成元年から地域の足として活躍してきた3両が、新型車導入にともないその役目を終えました。いずれの車両も20万キロ以上を走行し、15年の耐用年数が過ぎているため、本年度末までに大がかりな全般検査が必要でした。その費用が5百〜6百万円と高額な上に、部品調達が困難であることが

ら検査を断念。部品取り後の廃車解体が決定していました。そうした中、鉄道の廃車をミャンマーからの依頼で輸出している愛知県のリサイクル販売会社から、2両に白羽の矢が立ち、昨年春に輸出した1両に引き続き今年も買い取られ、活用されることになりました。

3月3日に金田駅構内を出発した車両は、3月末に名古屋港を出港し、4月末にヤンゴン港へ到着する予定。検査・改造・塗装を経て6〜7月ごろ現地で運行され、国営ヤンゴン環状線で市民の足として活躍する見込みです。3月2日昼に行われた、トレーラー積み込み作業を見守った前田忠吉営業部長は、長い間、ともにがんばってきた仲間と別れるのはさみしいですが、生まれ変わって海外で活躍する姿を楽しみにしています。これからも大切に整備され、故障せずに、たくさんの人を運んで欲しい」と愛着ある車両に温かいまなざしを送っていました。



町長日誌
13月定期町議会が5日に始まった。その初日に、前方城町長・白石博文氏を副町長とする人事案件が、賛成多数で可決され、この4月1日から、副町長の職務に就くことになった。一部の新聞報道で、「青天の霹靂」と表現されたように、驚きとともに、どうして...と感じた町民のかたも多いのではないかとと思う。私も決断するまでに、かなりの時間を要したが、福智町を良くしたいという共通の思いを、まちづくりに重ね合わせることであれば...という気持ちで、白石氏にぶつけてみた。合併時の町長選挙で論戦を交わした当事者であり、ご本人自身もびっくりすると同時に、悩み抜いて結論を出してくれたに違いない。それだけに、今回の選択が、福智町の安定的発展の成否を左右する重要な鍵を握ることになると認識している。また、今度のごとく、町民のみなさんからいただいたご意見やご批判は真摯に受けとめ、今後の町政推進のバネにしていきたいと思っている。もちろん、白石氏も、豊富な行政経験と町長経験を、ふるさと振興に活かしていただけるものと信じている。私自身、町長就任以来、行財政改革を標榜してきたが、目に見える成果をあげることができていない。まさに、合併後3年目を迎えた今年こそ、自らの姿勢を問う年にしたいたいと心期していることである。これから、さまざまな施策を講じていく中で、町民のみなさんに不自由な思いや不便だと感じさせることがあるかも知れないが、寛大なるご理解とご協力を願いたいと思う。

浦田 弘二